



伊達 隆 議員 … 1 件の一般質問

町道羊蹄登山線（南6線）除雪区間の延長は

町長：看板等を設置し、迷惑がかからないようにする



道路に駐車している車列

伊達

登山ブームと言われ羊蹄山へも年間1万1000人の方が来られ、ここ3、4年増加傾向にある。冬期間登山者、歩くスキー、スノーシュー、野鳥観測等、森林の中を散策するなど、羊蹄山へ足を運ぶ方々が増加している。

一方では迷惑駐車があり、住民が家に戻れない、家から出られない、さらには、除雪車両が終点まで行けず途中で引き返す

こともある。

付近にはトイレがなく雪の中へ大小の用を足すなど、観光地として頭を抱える状況にある。

除雪区間を延長し、駐車場の確保と冬季閉鎖されているトイレの使用ができるよう、環境整備が必要と考える。

町長

羊蹄山は、昨今の登山ブームにより、中高年の登山者がふえている。日本百名山にも選



冬期間、閉鎖している半月湖駐車場

場も除雪をしていない。

駐車場は、道路から奥の場所になるので、人目につきづらく、自然公園で禁止されているスノーモービルなどが入る可能性もあるために検討が必要である。

現在の公衆トイレを冬期間使用するには、暖房の設置を行い、送水ポンプも凍結防止の対策が必要で、多額の改修経費とランニングコストが予想される。

現状としては、駐車禁止等の標識や看板を設置するなど啓発し、住民に迷惑がかからないように行いたい。

ばれ、多くの方々が登山を楽しんでいる。10月中旬には冬山の季節となるので登山者も極端に減ることから、冬期間

は施設を閉鎖している。施設管理として、凍結破損を防ぐため、公衆トイレの水抜きや送水ポンプの撤去などを行い、駐車

三島 喜吉 議員 … 3件の一般質問

札幌オリンピックの競技会場誘致運動は

町長：関係機関と連携し、積極的に行動を起こす



三島

札幌市が2026年の札幌オリンピックへの誘致を正式に表明した。いよいよオリンピックへの誘致運動が熱を帯びてくる感じになってきた。

6月議会と同様の質問をしているが、この誘致が懸案事項である北海道新幹線、高規格道路の早期実現に結びつく大きなプロジェクトだという感じが持っており、この町が活性化していくためにも重要な意味合いが込められてくる感じを持っている。

これからの倶知安を担う子どもたちのためにも夢と希望を持った中で、倶知安でも競技が行われるとなれば、スキーの町倶知安としての競技人口がふえてほしいという願望がある。

商工会議所、観光協会それから体協などの組織が合致して、札幌市と連携をとりながらJOC、IOCへ誘致運動をしていくべきだと思う。ニセコが滑降競技に適した場所だという特質性

を大いにアピールして、誘致運動を進めるべきだなと思う。
町長の所見を伺う。

町長

11月27日、札幌市長が2026年の冬季五輪の誘致を表明した。市長は、「大会の開催は子供たちに夢と希望を与えるとともに、冬のスポーツ振興、日本全体の活性化につながる効果がある」と述べられ、冬季五輪の開催とは、まさに夢のある大会だと私も思っている。

一連の新聞報道等によると、アルペンスキー滑降競技の開催規格を満たしているのは、道内ではグランヒラフスキー場と富良野スキー場と報道されており、札幌での冬季五輪開催が決まった暁には、本町での競技開催の可能性は十分あると思っている。

また、北海道新幹線や高規格道路など、公共インフラの工事の前倒しもあり得るのではないかと思う。そのためにも、本町でアルペン競技の誘致



札幌市への誘致活動

ている。

今後開催に向けてさまざまな角度から検討を行うとともに、関係者と連携をとりながら多くの方々の協力を得られるように進めていく。
本町としては、積極的に行動を起こしたいと思っています。

＊もう2件「明日の倶知安町に向かって 2期8年の福島町政を振り返って」と「今シーズンの流雪溝の管理運用」についての質問は、『この課題に質問が集中』に掲載しています。

運動が今後必要なことと考えているが、実際にスキーコースとなる索道会社の意向を確認するとともに、地域住民の方々

からも協力をもらえなければ開催は難しいので、関係する多くの方々とともに、気持ちを一つにして進めていくものと考え



森下 義昭 議員 … 2 件の一般質問

今後の「まちづくり懇談会」開催の課題

町長：よりよい懇談会の体制を整えていく

森下 今年も9月24日から10月29日の間、まちづくり懇談会が開催されたが、変わり映えのない参加人数であり、むしろ、町側の参加が多く町民を萎縮させたような感じがした。また、開催要領も毎回同じで、会場周辺町内会と連携が取れていないと考えられる。

私も、8年連続で参加しているが、町民からの質問に対し、成果はどのくらいと判断し、課題として何が残り、今後どのように精査し、活力あるまちづくりをするのか、新しい町長に何を引き継ぐのか伺う。

町長 町の広報広聴活動の一環としてまちづくり懇談会を今年も10力所で開催し、町民の幅広い声を聞かせてもらった。

私達と膝を交えた座談会をイメージしたことで多くの町民に参加してもらうことは有難く、日頃の町民の意見等を肌で感じられる機会であると認識している。

開催日程の確認や、必要であれば事前の質問事項の受付等、各町内会長と行っている。また、懇談会結果をホームページに公開し、質問事項に対する回答や対応方針は、理事者を含め検討した結果をまとめ町内会回覧、また、内容の要約版は全戸配布している。

今年から町民向け予算説明書「アクティブくっちゃん」で、まちづくり懇談会等で町民の声により反映された事業や取り組みについて成果を明らかにした。これは大変好評だったと思う。今後とも試行錯誤を繰り返し、よりよい懇談会の体制を整えていき、参加と協働によるまちづくりを進めていきたい。

森下 まちづくり懇談会に参加した方は8年間で1492人だった。広報で周知はしているがどこで何時から開催するなど、近辺の町内会を広報車で巡回し、参加者の意欲を誘うことが大事だと思う。一遍通りの広報

だけでなく、細かい広報をして多くの町民の方々に来てもらい、意見を聞くことが大事だと思う。

町長 まず、町民が少なくて役場の人間が多く威圧を感じるという話。役場の職員も主幹、課長や部長になり勉強の場もある。周知の仕方、やり方を理事者と議員の皆さんで相談した方がいい。これは新体制に入っても同じことが続く。

森下 町の広報紙だけでなく、町内会と連携を取り、場所の選定や会場の増加により参集範囲の明確化と当日、広報車による巡回告知をやっているかと思う。

町長 これは大事なことで、なのでよく申し送りをする。



観光客に対する「おもてなし」

森下 現在、町とヒラフ間に冬期間くっちゃんナイト号と称して運行しているが、観光客に対するおもてなしが非常に欠けていると思う。

せっかく多くの観光客が宝の山から町に出てきても帰りはシャッターが閉まった『まちの駅』でナイト号が来るのを寒さに堪えながら待っている姿が非常に多く見られるので最終の運行が終わるまで『まちの駅』で待機ができるようにして、おもてなしを十分にすることが次の来客に繋がる事と思うが、町長の考えはいかがか。

町長 倶知安観光協会が関係機関との調整を行い、ニセコユニテッドシャトルバスと連携することによりナイト号の最終便は、午後11時台での運行が可能となった。

ぶらっとは現在、午後7時までの営業となつて

いるが、諸問題解決に向け関係者と協議を行い、少しでも開館時間の延長を進めていきたいと考えている。

また、日中のシャトルバス運行は、ヒラフスキー場と町中への営業運行をしている道南バスやニセコバスがある。競合して運行する事が難しいため、通常の路線バスを利用してもらい、そこから美術館へはじゃがりん号で行く事ができるので、利用してもらえと思う。

森下 検討するというところで、是非積極的な取り組みを望む。町長はよく宝の山と言うが、せっかくの宝の山の観光客を町内の美術館・風土館等を案内する事が大事であり、事をやるには予算が付きものなので、一定の予算を掛けて活性化を図るべきと考える。

町長 どの程度までできるか、担当ときちんと相談する。

鈴木 芳幸 議員 … 2 件の一般質問

国道 393 号線の安全対策は

町長：国道開通以来、事故も増え注意が必要だ



鈴木

鈴木 ①樺立トンネル入り口付近は、非常に事故が多発している。事故多発の原因を調査する必要があると思うがいかがか。

②北6線交差点の拡幅の予定を伺いたい。また開拓祈念碑の移動の考えはあるか。

③国道276号線と393号線の交差点の拡幅を早急に検討すべき。

以上の3点を開発局等への働きかけを要望する。

町長

町長 ①ことし10月17日に発生した樺立トンネル内の車両衝突事故により1名の尊い人命が失われた。車両事故は、国道開通後30件を超えていると聞いている。

北海道警察本部は、10月27日に死亡事故現場を交通安全関係団体の参加を求め確認した。その確認結果、対策案としては、路面がコンクリート打ちっ放し仕上げのトンネルであり湿潤時には、大



樺立トンネル入口付近

変滑りやすい状況となる。
そのためトンネルに入る
前に減速が必要であるこ
と、減速を促す看板や減
速表示灯を設置するよう
依頼をした。



北 6 線交差点

町から倶知安開発事務所に対応を要請していたが、11月中旬にスリップ注意の標識2枚を設置したとの回答を得ている。

②③は、小樽開発建設部

俱知安開発事務所の担当者に確認したところ、北6線交差点の拡幅と、国道276号線と国道393号線の拡幅は、平成19年度と年度に完了している。今のところ拡幅改良は考えていないという回答をもらった。

今後、状況を見きわめた中で対応していく。

＊もう1件「功績を残し
去り行く町長」について
の質問は、『この課題に
質問が集中』に掲載して
います。



盛多 勝美 議員 … 2 件の一般質問

プレミアム商品券の 11 月販売の反響はどうか

町長：販売開始 1 時間ほどで売り切れなど
好評と聞いている

盛多

①プレミアム商品券の販売は、俱知安商店連合会だが、町が助成していることから、11 月に実施した販売状況を伺う。

②商品券は、どのようなものに使われているか。

③今回の販売は、寒い 11 月で、高齢者や病弱な人への配慮など、今後における販売方法や要望などを検討できないか。

町長

①今回、俱知安商店連合会が販売したプレミアム商品券は、3300 組の総額

3960 万円分の商品券で、販売開始 12 時から行つて、1 時間ほどで売り切れたと聞いている。

②商品券の使われ方は、昨年の 7 月販売と大きく変わるところは、スキー場リフト券の支払いが浮上したこと。それから灯油などの燃料に対する支払いだった。

③販売方法や有効期限を確認したところ、商店連合会には苦情・意見などは今のところ出ていないと聞いている。

意見・要望などは、事



プレミアム商品券

農業の新作物の 取り組みは

盛多

道内では、生薬や漢方薬の原料として需要が高まっている薬

業主体である俱知安商店連合会に伝え、今後の販売について検討してもらう。

用作物を新規に導入し、試験栽培に取り組んでいる町村がある。

本町も過去には、先輩農業者がアスパラ・メロン・ワインの原料のぶどう・野菜類にもまた、家畜の導入など数多く取り組んできた。現在も八幡地区の若い青年が一生懸命に取り組んでいる。このような取り組みを

する農業者を支援するとともに、本町農業の将来のために新しい作物の検討は必要であると考えている。

町長

本町の基幹産業の一つである農業が、本町経済に与える影響は本当に大きいものがあると思う。

今後とも発展を図るためには、生産性が高く体質の強い農業を確立していくことが必要である。

薬用植物は、製薬会社が道内に法人を設立し、北海道を今後の有力な産地として重視している。

北海道経済産業局の支援もあり、高収益作物として導入する動きが十勝を中心に進んでいることも聞いている。

本町では、昨年、新規就農された方が「塩トマト」の栽培に取り組み、今後、経営の柱として規模の拡大を計画しており町としても青年就農給付金事業と併せて引き続き支援を行い、新作物の導入を関係機関・団体と連携を密にし、積極的に取り組んで行く。



塩トマトの栽培